

第3回レクチャー「千本ダムの堤体補強」 アンケート結果【概要版】

1. 講演についての感想【抜粋】

1. 堤体PSアンカーについては、以前より堤体補強の一方法として知見はあったが、今回初めて、適用した工事報告を聞くことができた。講演の中でも話されていたように、この方法はやはりアンカーの品質確保と長期的な(100年)耐久性確保が最重要課題ではないかと思っていた。品質確保については、昨今の技術力や製品開発で十分補うことができていると感じた。長期的な耐久性確保に関する一つの問題点は計測と計測結果に対する対応だろう。これについてはパネルディスカッションでも挙げられたように計測しながらさらにブラッシュアップしていく必要があるのではないかと感じた。
2. 100年以上も前に作られたダムが現代の照査方法ではNGのため、補強を行う工事でしたが、ほかにもこのような事例はあるのではないかと感じました。専門外の分野かつ短い時間での講義ではありましたが、知見を広げられた講義でした。リニューアル事業はトレンドであり、様々な分野に適用できるのではないかと感じました。補強後100年のモニタリングは難しい課題だと感じますが、興味がわきました。また、石積みの技術の高さに驚きました。石工の人口、技術の継承問題が考えられ、景観を保全し続けるためにもこれらの技術のICT化等も必要だと感じました。
3. 文化財登録された千本ダムの堤体補強の新技術を適用した事例を拝聴し、ダムが必要とする強度に関する規定や様々な関連する取り組みの概要を理解することができた。特に歴史的価値のある構造物を改修する為に、1) 機能維持しながらの施工、2) 価値を保持する配慮、3) 経済性等、様々な検討の実例は、今後の類似の改修工事には有意義なものであることを理解した。また、ロックアンカーの適用範囲が、コンクリートダム本体にも拡張された事を学んだ。大変興味深いレクチャーで、今後のシリーズの聴講が楽しみである。

2. 今後取り上げてもらいたいテーマ

1. 鋼構造の鉄道や道路橋などの土木遺産をお願いします。
2. 亀の瀬トンネルのような古いレンガトンネル等の維持管理や復旧
3. 農業用溜池の一種である香川県観音寺市の豊念池ダムなどの耐震補強について
4. 土木遺産を活用したインフラツーリズムの取組や、土木遺産である橋梁の修復技術
5. 閘門

3. 自由意見【抜粋】

1. 土木遺産の文化財としての側面も取り上げられており、保存と修復の改変にかかる内容について学習しました。石垣等の文化財の修復の測量に携わったこともあり、修復の考え方について学びました。
2. ありがとうございます。今後も同様なセミナーを期待しております。
3. 通常の土木構造物の補修補強に加えて土木遺産ということに対して特別な配慮が必要になってくることがあると思います。特殊事例になると思いますが、参考になることも多いと考えますので、広く情報共有を図っていただくとありがたいと考えます。

4. 集計

①職業 (n=244)

会社員	196	(80.3%)
団体職員	15	(6.1%)
公務員	8	(3.3%)
会社役員	8	(3.3%)
個人事業主・自営業	5	(2.0%)
退職された方・無職の方	4	(1.6%)
契約社員・派遣社員	3	(1.2%)
学生	1	(0.4%)
その他	4	(1.6%)

一般財団法人橋梁調査会、建設コンサルタント、ゼネコンOB、教員

②専門分野 (n=241)

河川、砂防及び海岸・海洋	45	(18.7%)
鋼構造及びコンクリート	41	(17.0%)
道路 (道路施設)	28	(11.6%)
施工計画、施工設備及び積算	28	(11.6%)
土質及び基礎	21	(8.7%)
都市及び地方計画	12	(5.0%)
上水道及び工業用水道	10	(4.1%)
下水道	9	(3.7%)
港湾及び空港	7	(2.9%)
トンネル	7	(2.9%)
電力土木	6	(2.5%)
農業土木	4	(1.7%)
建設環境	4	(1.7%)
鉄道	3	(1.2%)
建築	2	(0.8%)
その他	14	(5.8%)

農業農村工学、土木設計・農業土木・CM業務・橋梁点検など、電気電子、電気設備、測量業、造園、景観デザイン、ダム関連、文化財、石材業界誌

③シンポジウムを知ったきっかけ (n=243)

土木学会 HP 行事申込のページ	156	(64.1%)
家族・友人・知人からの紹介	31	(12.8%)
土木学会 HP 土木史委員会のページ	20	(8.2%)
土木学会誌	18	(7.4%)
その他	19	(7.8%)

同僚、日本大ダム会議、会社からの紹介、会社からの情報、会社のセミナー案内、会社の同僚、会社内の回覧、建設系 CPD プログラム検索サイト、社内の紹介、長崎県建築士会、土木学会のメールマガジン、イベントチラシ、ダム技術センター 川崎様からのご紹介、ダム技術センター様、業務の中で紹介があった、中倉様の紹介、日本水道新聞、発表者より

④シンポジウムの満足度 (n=240、5段階評価、⑤とても満足・④満足・③どちらともいえない・②不満・①とても不満)

平均 4.24 (⑤:82 ④:135 ③:23 ②:0 ①:0)

⑤音声配信の満足度 (n=205、5段階評価、⑤とても満足・④満足・③どちらともいえない・②不満・①とても不満)

平均 3.94 (⑤:63 ④:79 ③:52 ②:11 ①:0)

⑥次回案内の希望者

81.1% (198名/244)